



My Camp Life

丸山 和也

Maruyama Kazuya

NAOC アウトドアガイド
森のようちえん
元とちぎYMCAのリーダー

▼YMCAとの出会い

私のYMCAキャンプ経験は幼稚園教諭になるための学生時代に始まりました。当時キャンプの知識は全くなく、リーダーとして子どもたちの前に立つには経験が必要だと思い、参加できるプログラムには、ほとんど参加するようにしていました。夜に輝く星の下で子どもたちと一緒にしたキャンプファイヤー、グループリーダーとして眠れないメンバーに寄り添ったこと、キャンプミーティングでリーダー仲間と夢を語り合ったことは今でも記憶に残っています。薪割りや、テント設営、アウトドア料理、スキー、サッカーなどはYMCAのキャンプで得た経験です。

特に障がいのある方と一緒に登った富士登山では、障がいがあるなしに関わらず、お互いに励まし合いながら同じ目標を目指して進んでいくかけがえのない経験をすることができました。

私が所属していたとちぎYMCAだけでなく全国のYMCAに同じ志を持った仲間を得ることができたのは素晴らしい財産だと思っています。



▼社会人として

念願だった幼稚園教諭として子どもたちと楽しく関わりながら過ごしていました。しかし、保育者として疑問をもつようになりました。決まったスケジュールや行事に追われるのではなく、その日の気候に合わせた遊びや、園を飛び出して野外でのびのびと子どもたちと関わるできないかと考えるようになりました。

イメージは「毎日キャンプをするように子どもたちと関わりたい！」でした。目的を叶えるために保育園、学童、福祉施設など様々な場所でたくさん子どもたちと関わり経験を重ねていきました。リーダーを始めた時も経験が必要だと思い何事にもチャレンジしていましたが、社会人になってからもチャレンジの連続でした。新しいことにチャレンジしてみようと思えたのはYMCAでの体験のおかげでした。



▼自然、そしてキャンプの力

現在は栃木県の日光を中心にアウトドアガイドとしてラフティング、キャニオニング、地底湖探検、自転車、雪山登山など子どもから大人までのアウトドアアクティビティの提供をしています。もちろんイベントとしてキャンプも続けています。

野外で保育をするという目標も「森のようちえん」として活動をするができるようになりました。栃木の豊かな自然を沢山の方に感じてもらいたい。子どもたちに地域の良さを体験して地元愛のある大人へと成長して欲しい。学生の頃にYMCAで始めたキャンプが仕事になるとは思ってもいませんでした。



▼これからもずっとチャレンジし続けるY M C Aでいて欲しい

これまでたくさんのキャンプをしてきて考えさせられるのは今の子どもたちには本物の経験が足りないということです。川で魚を捕まえたり、自分たちで食事をつくったり、火の扱い方も知らない子が多く見られます。家庭ではスイッチ一つで簡単に暖かさを手に入れ、食事でも保護者が作ってくれるのを待っている子どもがほとんどでしょう。

キャンプは基本的に自分たちでやらなければ生活ができません。できるかどうか結果はわからないけど、まずはやってみよう！チャレンジしてみよう！という気持ち大切です。失敗を恐れて何もしなければ、経験を得ることもできませんし、経験から工夫をしてみようという発想も生まれません。これらを体験できるキャンプでの経験は学校での学びと同じくらい大切なものだと考えています。

Y M C Aでのキャンプはたくさんのリーダーがメンバーのやってみたい気持ちを見守る環境が整っていると思います。これからもY M C Aが子どもたちにとって良きチャレンジの場であり続けてくれることを願っています。



Profile

- ◆1988年栃木県鹿沼市生まれ。
- ◆学生時代は、ボランティアリーダーとして、キャンプ、定例野外活動、東日本大震災被災地復興支援活動、バザー、チャリティーランなど様々なプログラムで活躍。リーダー名(ニックネーム)は、ロッキー (ROCKY)。
- ◆幼稚園教諭、保育士、放課後児童クラブを経験後、自然に魅せられて2011年から栃木県鬼怒川温泉のNAOC(ナオック)でアウトドアガイドとして活動。NAOCあおぞらきっず、森のようちえんとして年間を通して子ども達に冒険プログラムの提供を行っている。